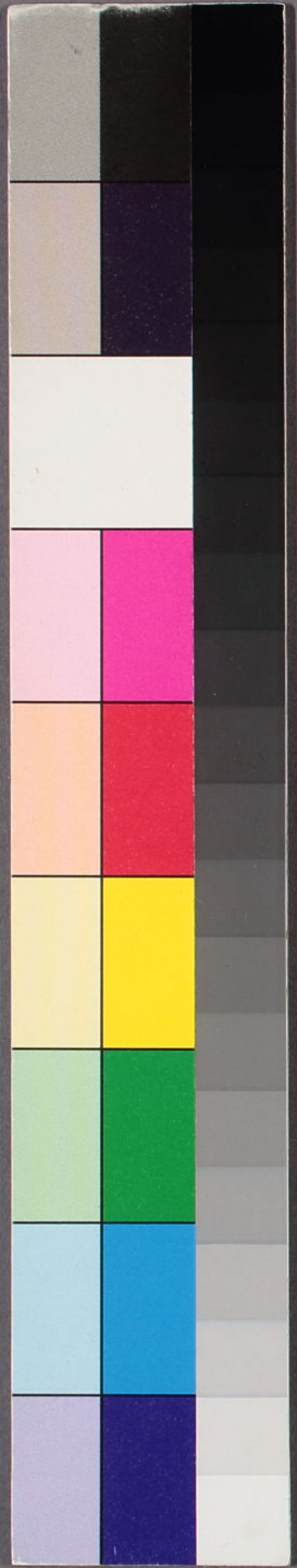


笑註烈子
五

^ 13

786

5



心 123
卷 八
八



尾字

異國
風俗

笑註烈子卷之五

大勇力國

論語孔子不語怪力亂神
 聖賢の道と教えのつらき怪力亂神の初學
 の要ありざるより人々を驚き及ぶるを村學究
 害と為す小國にてあれど治り治えずと之を
 或は學の社師又は教團の女子孔子に怪力亂神の
 小國ありは多き治り治えずと孔子怪力亂神の
 とはたりより歴史小國にて教えられざるを



六八五

列子も名の物小勢カ國の首領也十一身をひと列
るカ國入西北門と云ふもその門の法大なり南又
大の神の名の首領也二塔も有りともその外所
小なるセハ丈或十丈ありある石門も教と云ふ也
西北門の入口小なる丈あり幅五尺ほとも其故
石の柱あり。も文あり。自是此南方八萬里有王
城と四面四面の文字あり彫刻たり列子その也
之ツ意を消し一處不同なる也一大方石門
略大石の柱と云ふりの民これを建小定て力事
男多人数も有りつん足下初り修入名と有り
これと云ふを云ふも二三人小ハよもも事

列子も名の物小勢カ國の首領也十一身をひと列
るカ國入西北門と云ふもその門の法大なり南又
大の神の名の首領也二塔も有りともその外所
小なるセハ丈或十丈ありある石門も教と云ふ也
西北門の入口小なる丈あり幅五尺ほとも其故
石の柱あり。も文あり。自是此南方八萬里有王
城と四面四面の文字あり彫刻たり列子その也
之ツ意を消し一處不同なる也一大方石門
略大石の柱と云ふりの民これを建小定て力事
男多人数も有りつん足下初り修入名と有り
これと云ふを云ふも二三人小ハよもも事

大正十一年...

二

其のほいて鞍馬流の知洲の陣死と云はひ一
を平絶しあふ韃靼國へ推後、其の主人と
ありし者すづり終り。今の中身と云はひ
義経の末孫と我經、清和源氏の嫡流たる
清和の清の一字とて清の代と云はひ、
判官正成が播磨、淡州、伊予、自害せり、
日向して生かちり死せり、北條へ怒とありて
ゆきくといふと、あまげりて室氏の駿
書箱小のぼりてありといふ。清和の
孔明秋羽の桐と人よくは突て二文も小
づひの人物とあふりあざうりまじり、
孔明と

義経の末孫と我經、清和源氏の嫡流たる

此説至極
カ楠ヲリ
ハサヲリ
ナニヲ論ズ
ニメヲシ

桐とハ、月夜と龍ほど遠くてたとも、孔明が大名
あは、桐は、軽さひの人物、こゝに、あ、い、ん、と、い、ひ、
大手記、生かちり死せり、七生男、同怒とあさで、
少軍法討畧たくまき、南朝、二の軍帥と称
一人のおとむ、あ、い、ん、と、い、ひ、孔明と云はひ、仲、
評、い、ご、う、と、い、ふ、あ、い、ん、と、い、ひ、室、氏、の、あ、い、ん、と、い、ひ、
氏、及、徳、の、あ、い、ん、と、い、ひ、あ、い、ん、と、い、ひ、あ、い、ん、と、い、ひ、
と、かく、書、箱、の、あ、い、ん、と、い、ひ、あ、い、ん、と、い、ひ、
十、出、羽、の、あ、い、ん、と、い、ひ、あ、い、ん、と、い、ひ、
も、我、勝、の、あ、い、ん、と、い、ひ、あ、い、ん、と、い、ひ、

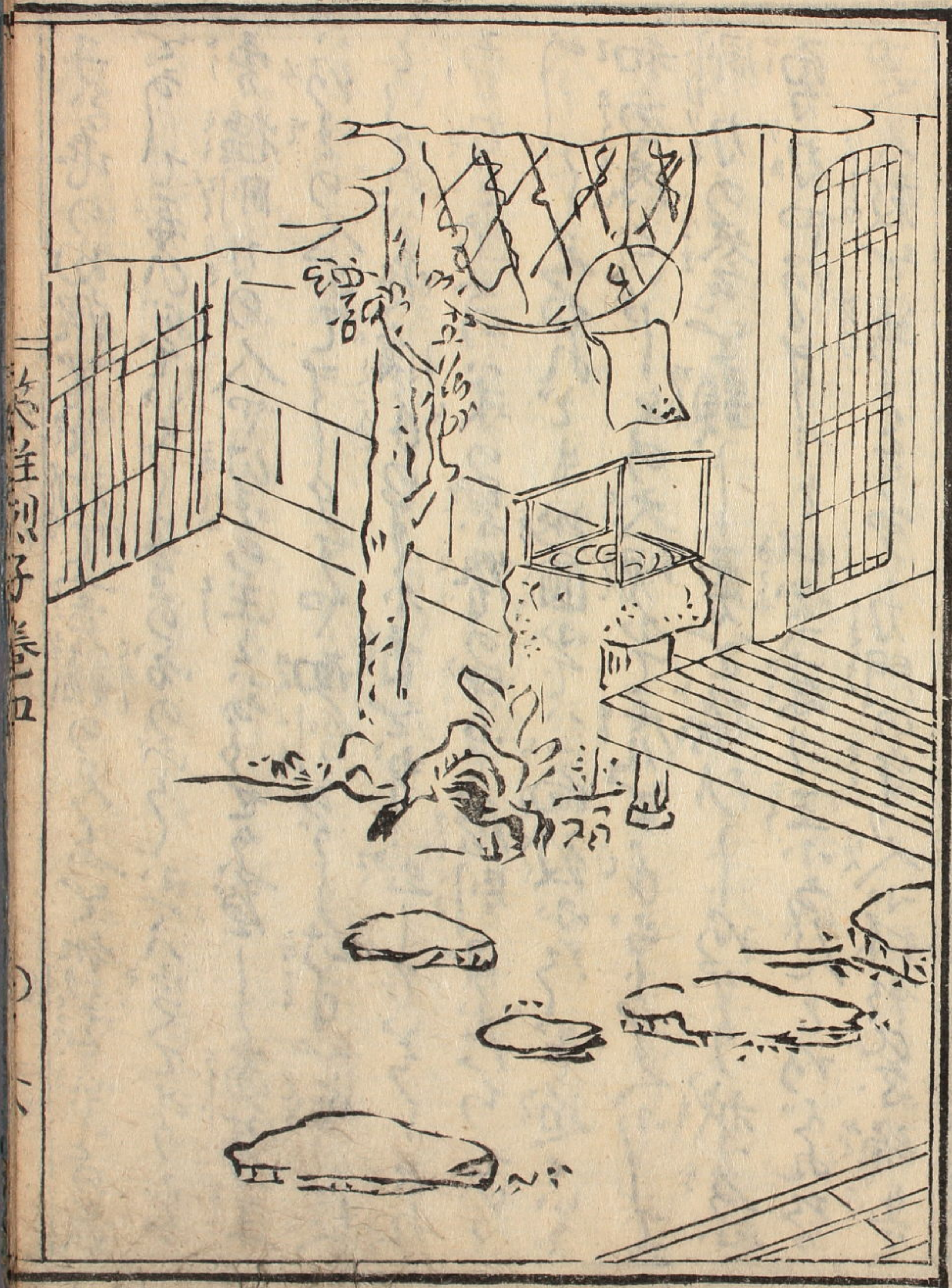
大入生川子巻五

ずぐハ器の挾小人（五七九）論衡（古今）に於ては、
太平記（五）五雜俎（古今）のりぞ、
大傳（古今）とて、
川合（古今）の街へりて、
一旬（古今）せやく、
又ハ、
洪砲（古今）とも、
小玄（古今）も、
と玄（古今）の、
是も、
の大畧（古今）ハ、

柳（古今）とて、
玄（古今）の、
死（古今）の、
て、
リ、
か、
後、
の、

さうりそを迷惑千あり一向根拠もなきのりぞまゝ思儀り
 のひて法學の人ふふらま。そと毎年のよふ不徳者
 も中忠臣義の戲場ハハソをそも増治判官が切腹の
 時々のくおまが嗜せいたちりりりまを笑ひり
 就中某七ツ頭の牛小宗りて大敵を毛とあり、又
 鬼女とあり落衣を被るふふれれあんとす
 ハ詭形もあありいあんを責せとあとの不徳何んや且
 又七とふ人もまふらきうぬ若し逆ざらハおのれが形を
 狐狸の怪物とぞおあありき鬼女ふつきてたふ
 おふれれおと修馬ふ撃てあくの社壇あどか掲
 おく。さうとハお雨りーものこと毎まハ人たり

鳴ーあんとあんを檢究の時大江山おふりー盗
 人の頭酒吞童子もたえおあおの鬼の首せりて
 びひてそ身ハ逆産せけお小あれり今そも酒を
 飲み女をばいのめや酒吞童子ハ酒問屋とあり鬼
 殺とハ酒を作り出ー油の外店も後ハ鴨の池
 ぐらひのふふて出店ハ女郎をとおく不出せ
 リ。いのりの鬼殺とハ酒を初て遠く出せーと
 ぶひの録を記録者が角の生トたをあありき鬼
 としえふ。あふをきりてあてしりーけりま
 者ぞ鬼とす。又おあありき花女せもあふとしえり
 安達ヶ原の旧塚おあふとあありとハも老女のこと



卷五



卷五

子ハ龜の肉信を突初て書籍のふよと新りも喰まの云
せりして再び問ていらく之をのちのぶくふてハ定てそり
勇猛剛力の人やけの王とありせり座一山附の王
ハ河のふてそりやや面創あがけりや座一後
といふれは堪懐子のすふ首とありし出してそり
勇力といふれは木の繁密の中て格別目ふたちて
めくもれども地國少ハ一向波ふらぎ道く
和を内といりとの大明とて虎とよそりそり
剛力の云とて頭一勇と振ひ一河中り禁ふ
勇力や河のそりといふは来り王ふんと河を
ゆく人教を集るをもく力門の守り人小林が学踊先

先言系二

又ハ

和を内が甲の州扱せ入りそり合さしあり
後々を河を交うの古法が領をつみ一例とす
和を内が領首と下摘ハ一と勅るは不許て和を内
ハ氣の猶小くへられそりそり向も先ぞ思降承して
今ふてハ山谷迷管王ふら入て熊や虎とそり一獵人と
ありて世を後とすそりハ和を内ふらぎりぞありて地家
百人がもれんかそり自快私光てけり後りけりふても
めりえりめりハ契啗や合符をんをりちとふかりて忽
小祿ら倒れりめりめりかそりもはきんやそり力
の自快ハ場ふりてありぬあそり君も汝をそり
そり一河の流のあそり自快の人へけりそり

先言系二

九

修く教訓はぬうー是西虎闘対ハニあが死す
の経歴あれはひともは看三四年方きり後きり
一がどかく女の世の中と倍ふふ多う。巴伊前とる
美光女九十一歳まで日おけお後りて今てそ
の女帝と名教なりーくく勢徳ふ徳居れりと
あーるあく勢徳ふあて力附とふてとて故人附
とるふふ小冊子と名なり。到子お何てとるおれとる
天の六いふ及ぶす。和徳ふ名何。智勇をたぬー人ハ
まけ小冊子お記し何う。到子ハ徳ふふりひ力附
と徳ふあが。他ふいそぎのーとるん

大酒公評いさく。壺が書籍の見たと海でる。

六経の書とるふふ徳とるといふ後のおふも
それとも竹葉の上歴史と新書等の文法を考
ときハ見解の一助ともある。又力附と刑
る二原ハふりも得とある。これ人ハ徳た力量
ハ性質の二徳とて場おふり。時ふり人ふりて
も用とある。りり。あー。と徳と行い。得
自カで自負し。争闘とふめ。ふふふふ
弱る者て悔り。ま。ま。ま。人とおふ
弱人の恐。迎。智。人の彼。あ。と。と。と。
えて。己。功名。思。い。我。ふ。は。く。者。あ。と。と。
り。あ。り。あ。人。ふ。れ。と。徳。ふ。十。人。力。あ。る。人

と先んや抑は刑戮を蒙り濫觴を飲まず是亦一學
問せざるを及ぶく己多欲にして安んずるのみ其業
不怠り大酒淫色を嗜む一令其其ハ賭博不忠を委
かくしてそしめし人の信不し下ぎれば謀計虚公若て人
の令其財寶を欺奪し又人の事かしてさるる國法を
犯して盜賊とすや其不天罰忽ち身小懲の懲
尺刃の下小令と失ひぬくと父母の事不及をす
親族縁者の悲涙なぐきいづをあり其者も益也
されは一舉とそと示れ親戚分令と大切也
父母の事と有りて考示伯父伯母の事と考致し
又姉を殺ひす妹を乞親戚縁者を親み朋友不信と

其一人を誘せし下と憐じなせり要務と
を度し一而後其家業を日夜耕作して衣食住の事あり
小治家事いふふんがく益あり一家一族の安全を事とし
米を度し一を一族の災難疾病の事踏自告あり不違お
舉げて其を治し其計を度し凡人の身の家を
の天患難七條あり。一一族又ハ朋友の中と事とも
右七條のうらつても何ハ親戚を不忠を事とお互に
救ふ度し一日水火の難二小日盜賊の難三小日疾
病の難四小日死喪の患五小日幼少にして父母
小難なるもの患六小日自然横命を罪せしけり
難七小治のなるもの患七小日おのづから不忠之小治

大正九年...

中懐のちり人へのゆきまき命長久富き万福
我内安ん子孫無事昌祈のたの毎牛正月祝くが
守子た病大夫氣変といふ方威を流るの人家く
をまを産し一そ系お産河のましと鳥不相合ひい名
いたぎのま産しと病と氣と代りく小列子を打
ふせほどもく列子の本國界不老山の麓近歩
川の遠ある万平をといふを湯薬をへるりけふ
小て病癒ふ時こしとほきぬ名残の誰杯あとき
暫くおつらり一病癒をいかに玉ありとらん烈
子にこれか獨歩しとふふかとあり一秋作家へありしと
ふそそくしが松吹ゆとと流るも小一羽の愛か受て

ちく爐前ふふ茶器を並べて僅四か契茶の煙しそ
をいたり名列子のふそと伸し一ちる欠二ツこつしそ
羨中のはりと熱思ひんふゆく女盧せまらんし
邯鄲の愛ハヌ十年の榮耀紫衣舞のらあり信産
あ一秋がえし一愛か方が一流人の教とも又ハ切巻
懺悔の山楹ともあり産きしりを得たりとま感伝し
我ん一羨の祈と正写小書留それふ代が号と羨中
散人も古ふ教多られ名産書と号し一ちく初を
小教授しと後くハ王公貴人へ出入せざるといふもあ
くまそ教せしまき命長久富き万福
安んふ子孫無事昌祈のたの毎牛正月祝くが

八ノ庄川ノ...

天明二壬寅歲正月吉日

烏丸通高辻上所

皇都書肆

河南儀兵衛

皇都書肆



